公式版のシラバスを表示

最終更新日：2024/09/10

0ATGE57　臨床薬剤学特論

1.0 単位, 1 年次, 秋AB 水6
本間 真人, 土岐 浩介, 旗野 健太郎

授業概要

薬物の効果や副作用には薬物の体内動態(体液・組織中濃度)が関与している。薬物の効果や副作用を理解するために1)薬物体内動態解析法、2)薬物動態を制御する特殊製剤、3)薬物動態に影響する代謝酵素や輸送蛋白の基礎知識と研究方法について学ぶ。
目標:薬物の効果や副作用について薬物動態を用いて解析し論じることができる。

備考

対面

授業方法

講義

学位プログラム・コンピテンスとの関係

専門：基礎知識の活用力

授業の到達目標（学修成果）

薬物の効果や副作用について薬物動態を用いて解析し論じることができる。

キーワード

薬物動態学、薬物間相互作用、副作用

授業計画

薬物の効果や副作用には薬物の体内動態（体液・組織中濃度）が関与している。薬物の効果や副作用を理解するために１）薬物体内動態解析法、２）薬物動態を制御する特殊製剤、３）薬物動態に影響する代謝酵素や輸送蛋白の基礎知識と研究方法について学ぶ。

第1回　（10月2日、6時限）臨床薬物動態学：土岐浩介
第2回　（10月9日、6時限）薬物の吸収：土岐浩介
第3回　（10月23日、6時限）薬物の組織分布　：旗野健太郎

第4回　（10月30日、6時限）医薬品開発における薬物動態試験　：旗野健太郎

第5回　（11月6日、6時限）　薬物代謝酵素・輸送タンパク：本間真人

第6回　（11月13日、6時限）薬物の副作用　：本間真人

第7回　（11月20日、6時限）薬物間相互作用　：本間真人
第8回　（12月4日、6時限）　治療薬物モニタリング：本間真人

第9回　（12月11日、6時限）薬物動態学（トピックス）：土岐浩介

第10回 （12月18日、6時限）予備

履修条件

なし（日本語による授業）

成績評価方法

出席状況とレポートにより評価する。
3分の2以上の出席およびレポート提出を単位取得要件とする。

学修時間の割り当て及び授業外における学修方法

授業は全て講義（100%）で実施する。
授業範囲を予習し、授業後には必ず復習すること。

教材・参考文献・配付資料等

特に定めない
参考書：臨床薬理学第４版（日本臨床薬理学会編、医学書院）
講義用ハンドアウト

オフィスアワー等（連絡先含む）

メール等で相談

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）

他の授業科目との関連

ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）